

北海道地域「ダイバーシティ経営企業100選」、「新・ダイバーシティ経営企業100選」選定企業の取組概要について**平成28年度（全国31社選定、うち北海道1社）****■株式会社ノベルズ（上士幌町）**

同社は、肉牛・食品事業を行うノベルズグループの中核をなす農業法人。自社ブランド「十勝ハープ牛」の生産や、生乳と肉牛のいずれも生産する「乳肉一貫複合型経営」により事業を拡大させたが、急速な事業拡大に対して、人材定着・育成や組織化、ガバナンスの整備が追いつかず離職率の高い時期が続いた。

このため、大手メーカーを退職した経営人材の採用や、企業経営に関する豊富な知識と経験を持つ公認会計士等の社外専門人材を経営活動に加えたほか、年齢・性別・国籍によらない能力主義を基本とする人事評価の導入、現場の自律性を高める権限移譲とリーダー層の育成、多様な人材が働き続けられる勤務環境の整備など組織的経営への変革を実施。

こうした取組が有機的に繋がり、「農業を企業に」する視点が定着。多様な視点や経験を有する社員が自立的に行動できる組織として変革し、「勝てる農業」に不可欠な規模の拡大と生産性向上を達成している。

平成27年度(全国 34 社選定、うち北海道 1 社)**■株式会社 ダイナックス(千歳市)**

同社は、オートマチック車クラッチ部品メーカーとして1973年に設立。創業当初から、優秀な技術者を確保するため、多様な人材の能力を最大限に活かすマネジメントを実践してきた。国内市場が鈍化していた時期、「より一層のグローバル化を推進する必要がある」との判断から、スピード感をもって交渉していくため、外国人・女性・若手社員にも積極的に仕事を任せ、海外における営業力の強化を図っている。

また、動きの速いグローバルビジネスに対応できる人材を社内で育てていくため、入社4年目前後の若手社員を社内選拔し、同社の海外拠点に研修生として1年間派遣している。2015年度の派遣者は、5名中4名が女性であり、実力に応じ積極的に機会を与えている。

これらの取組が、海外におけるスピード感あるグローバルビジネスの展開、国内製造現場における生産性等の向上に繋がり、国内外で競争力の高い企業として現在も成長を続けている。

平成26年度（全国52社選定、うち北海道1社）**■健康とうふ、株式会社（苫小牧市）**

価格競争による販売戦略から、品質重視の高付加価値商品への転換を機に、障がい者の雇用・育成を始めた。障がいを持つ社員に対し、常に特定の社員が「職親」（会社内の業務を指導する担当者）として1対1で指導する「職親制度」により、障がいのある社員が混乱することなく作業を行うことが可能となった。この結果、生産工程がスムーズに流れるなどの改善が見られるとともに「多様な人材が活躍する会社」として、地域における企業評価が向上した。

平成25年度（全国46社選定、うち北海道1社）

■株式会社 特殊衣料（札幌市）

同社の主業務は、病院・医療施設を中心としたリネンサプライ、清掃であるが、機械化には限界があり人手不足の中、平成3年に初めて知的障がい者を採用した。

選定時24名の障がい者の方々が働いており健常者ではなかなか続かない仕事も几帳面に作業を行い生産性が高く業績拡大に大きく貢献。

また、てんかんを持つ社員への対応から生まれた保護帽「アボネット」が自動車会社、かつらメーカー、病院、インフラ企業等からも注目され売上げが増加。

平成24年度（全国43社選定、うち北海道2社）

■六花亭製菓 株式会社（帯広市）

各部門間での頻繁なジョブローテーションが柔軟職域を創造し生産性向上、業務改善を促進。有給休暇取得100%を目指しワークライフ・バランス実現を図る。また、表彰制度等で社員のモチベーションを維持、多様なテーマによる社員からの情報発信でトップが業務改善や適材適所を実現。

■株式会社 24-7(札幌市)

スキルの高い社員の出産後の継続雇用(完全在宅勤務)制度の導入、グローバル案件獲得に向け外国人が活躍するほか、北海道初のコワーキングスペース開設により、優秀なフリーランス人材を活用した業務・人脈拡大を実現。